

ストリートから東京の今を伝える情報サイト

 style-arena.jp

2014-15 Winter

201415 年冬のストリートスタイル総括レポート

JFA「style-arena」Report 2014-15 WINTER

www.style-arena.jp

 JFA

一般財団法人 日本ファッション協会

ストリートから東京の今を伝える情報サイト



2014-15 年冬のストリートスタイル総括レポート

CONTENTS

地域別ファッションの特徴	3
チェスターコート <i>Chesterfield Coat</i>	4
ロングコート <i>Long Coat</i>	6
インナーダウン <i>Inner Down</i>	8
G ジャン <i>Jean Jumper</i>	10
タートルネック <i>Turtle Neck</i>	12
白ニット <i>White Knit</i>	14

TOKYO STREET STYLE 2014-15 WINTER

地域別ファッションの特徴

東京のストリートファッションを観察し発信している web サイト「style arena.jp」。
原宿、渋谷、表参道、代官山、銀座という、テイストが異なった 5 つのエリアのストリートスタイルを掲載し、リアルなファッションの動きや流れを伝えている。

現在は以前とは違い、地域別ファッションの特異性というものは薄まりつつある。それでもまだ地域毎に根付いているファッションスタイルがあり、“違い”を感じる事ができるのも事実。このレポートではその違いについてもお伝えできればと思っている。

原宿

セオリーを無視したバランス感覚。

バランスや感覚に優れた若者が多く、モード、カジュアル、トラッドなどのスタイルを融合した、いい意味でセオリーを無視したスタイルを生み出している。
また、原宿は東京で一番古着屋が集まっている街。ほとんどの人が古着を取り入れ、個性的なファッションが見られる。



渋谷

この街を見れば、日本の女性の“今”が分かる。

流行の移り変わりが最も激しい街。流行のブランドに集中した結果、似たようなファッションスタイルをよく見る事が多い。“流行はあるが個性がない”のが渋谷。しかし常に新しい物を求め、敏感に探し、纏っているのが渋谷だ。この街を見れば、日本の女性の“今”が見えてくる。



表参道

スマートでモードな洗練スタイル。

ハイブランドの路面店が並ぶ表参道では、集う人々のスタイルは特に洗練されている。基本はモノトーンを基調にしたスマートでモードなファッションで、小物使いがうまいのも特徴。無駄な物は付けず、コーディネートに足し引きの感覚が優れている。高級な物もそうでない物も、等身大で飾らずにスタイリングできるセンスを持ったエリアだ。



代官山

流行に流されない個性派が集う街。

雑貨屋や古着屋で買ったノーブランド服や小物を身につけている人が多い。また、人と同じファッションを嫌う人も多く、流行に流されにくい。特定のショップやブランドにも強い拘りを持たず様々なショップをまわって同じブランドが重ならない。原宿とは違う個性がある魅力ある街だ。



銀座

ラフさと高級さが同居した上品スタイル

全体的には年齢層が若干高めで、上品で落ち着いた雰囲気を持った人が多い。ラグジュアリーブランドのバッグや時計を身につけている人も多いが、それでも全身を高級品で固めている人は少ない。ファストファッションのブランドを MIX して決して、ラフさと高級さを同居したスタイルに仕上げている。



チェスターコート *Chesterfield coat*



チェスターコートの勝因は「懐の深さ」

2014年冬のアウター事情を振り返ると、昨年、一昨年と勢いのあったモッズコートはやや低迷。スタジャンやダウンも例年ほどではなく、コーチジャケットやダッフルコートなど、ややきれい目かつカジュアルにも合わせられるものが目立った。そんな中で、やっぱり強かったのがチェスターコート。

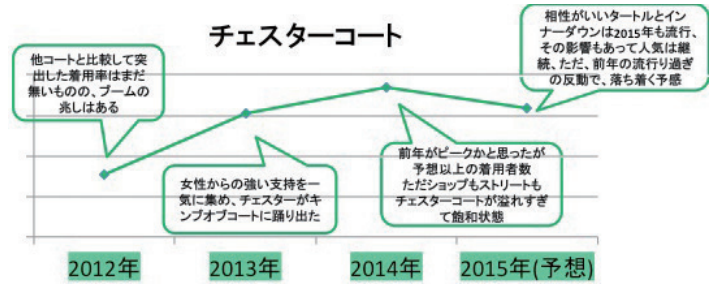
男女ともにシングル、ウール素材、色はベージュかネイビーのものが定番だが、今季はビッグシルエットや異素材、色や柄もかなり多様化。レディースではドロップショルダーで、丸みのあるシルエットの物の着用者が目立ち、メンズではウィンドーペーン*のような上品な柄ものを着ている人が多い。グレー地に白のようなシックなものが多いので、主張し過ぎず、幅広いスタイルにフィットする。こういったシルエットや柄を加えることで、チェスターの「らしさ」を保ちながら、今年らしさ、新鮮さをプラスしている。「万能性」を武器に、アウター界を勝ち残った「今世代代表アウター」と言えるだろう。

※ Windowpane ウィンドーペーン 窓の格子のような細いチェック柄のこと。



POINT

チェスターの強みはなんと言っても「万能性」。上質な定番ものを一着手に入れてしまえば、シャツやスラックスで正當に固めようが、カレッジスウェットとデニムで着崩そうが、何でも受け入れてくれる。首元が空為、タートルネックやマフラー、スヌードなどが入れやすいし、小物もハットとニットキャップ、スニーカーとレザーシューズなど、テイストを変えれば違った表情を見せてくれる、懐の深いアウターだ。



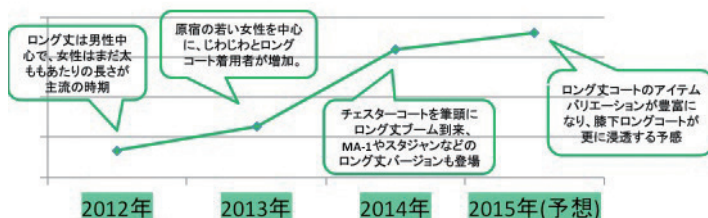
ロングコート Long Coat

ロングコートで存在感 2 割増し

ここ数年間、レディースのアウター事情を見てみると、「チェスターコート」を筆頭に、毎年ロング丈が街に溢れている。どの雑誌を見てもモデルが身にまとっているのは、ロング、ロング、ロングの嵐。ロングを更に超えた「スーパーロング丈」もトレンドとなっている。主にスネあたりまで長さがあるアウターのことで、一見スタイリングが難しそうにも思える。ところが、インナーコーディネートタイトなシルエットに仕上げると、メリハリが付き、全体的なバランスも良くなる。また、流行りのミモレ丈スカート、ガウチョパンツ、ワイドスラックスとの相性もいいのも嬉しいポイント。



ロングコート





POINT

流行りのミモレ丈スカート、ガウチョパンツ、ワイドスラックスとの相性もいいが、そこで大事なのはトップスをタックインすること。これにより、ボトムにボリュームがあってもすっきりとした印象に仕上げられる。



インナーダウン *Inner Down*

心強いインナーダウンの汎用性

2014年冬の機能系アウターとして最たるトレンドに躍り出た「インナーダウン」。保温性がある薄手のダウンベストなどを、アウターのインナーに着るスタイルは、男女ともに人気を博した着こなしになった。秋冬にストリートファッションで大いに見掛けた「チェスターコート」や「テーラードジャケット」は中綿入りの物は少なく、防寒性が低いのが欠点。だが、中綿入りのインナーダウンを着ると、暖かさを得られるのはもちろん、「ナイロン」×「メルトン」などの異素材レイヤードで「新鮮」且つ、「小粋」さもプラスできる。また、アウターとのレイヤリングを前提にデザインされているため、着ぶくれせず、スタイリッシュな着こなしも味わえる。

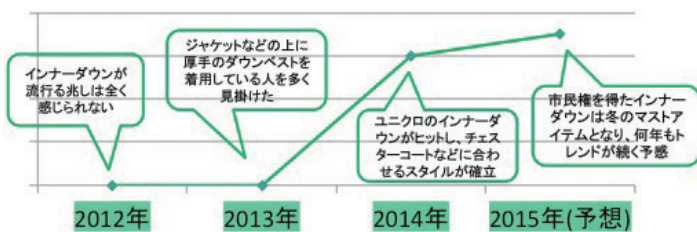
活用術としては、ノーカラーで袖が無い「ベスト型ダウン」であれば、手持ちのどんなアウターのインナーにも合わせることができるため、厚さが中間的なアウターでも真冬まで使える。更に、ボトムスを選ばない汎用性の高さも見逃せず、デニムやチノパン、スラックスまで幅広く合わせられる。

最近、スポーツテイストに上品さやエレガントさをミックスさせた「スポーツリユクス」というファッションが注目されているが、インナーダウンはその着こなしにもバッチリとハマる。スポーツリユクスは元々2014年の春辺りからレディースを中心に浸透したが、秋冬になってからはメンズにも波及し、人気が急浮上したスタイル。人気に拍車がかかった要因としては、上品なジャケットやコートの重ね着に最適なインナーダウンが登場したことが大きいと言えるだろう。





インナーダウン



G ジャン *Jean Jumper*



POINT 1

G ジャン人気が加速した理由は、ドロップショルダー気味に着的「オーバーサイズスタイル」が定着したこともあって、アウター同士をレイヤードする着こなしが無理なく実践できるようになったから。トレンドの「チェスターコート」や「トレンチコート」は上品でクラシックな趣が魅力だが、着こなしによっては堅苦しい印象を与えることもある。G ジャンをインすることで、その堅苦しさを解消し、抜け感を出すことも可能なのだ。



G ジャンのポテンシャル

冬のトレンドを振り返った中で、印象深いのが、ライトなアウターの上に冬コートを重ねる、「アウター・オン・アウター」のファッションスタイル。上級者のイメージが強いこのスタイルだが、2014-15 年は「インナーダウン」のブームによって、徐々にそのハードルは下がっている傾向にある。確かにインナーダウンは、アウター・オン・アウターを確立させた 2014-15 年冬を代表するアイテム。だが、その独走状態を許さず、待ったをかけたのが、「G ジャン」族だ。G ジャンにコートという着こなしは、インナーダウンに負けず劣らず、男女ともに多く見掛け、ストリートファッションを席巻する人気スタイルになった。

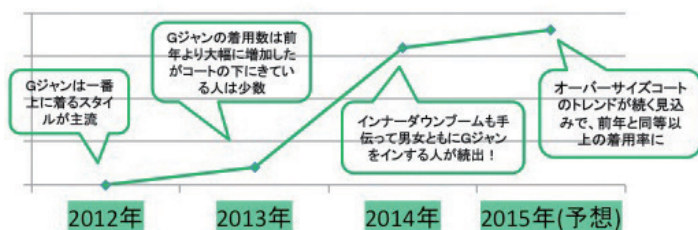


POINT 2

Gジャンは“シャツ感覚で使いやすい”アウターの中でもコンパクトでボリューム感が出にくいアイテムで、レイヤードをするには最適。アウターを脱いでも“サマになる”のも良い点だ。注意としては、例えばロングコート、Gジャン、ネイビーのパンツを組み合わせたコーデの場合、アウターをレイヤードすると、どうしても上半身を中心に重さが出てしまう。軽やかにするには、Gジャンのインナーに白のトップスを合わせるか、足元をロールアップしたり、白靴下を合わせてチラ見せする事が必要。



アウター・オン・アウター(Gジャンをイン)



タートルネック *Turtle Neck*



タートルネックはノームコアの象徴

2014 年を振り返ると、まさに「ノームコア」の年だったと言える。ノームコアとは、【究極の普通】という意味で、デザインではなく素材や着心地といった質の部分追求するスタイルのことを言う。メンズ・レディースともに、ここ数年続いてきたミニマルさを求める流れが、さらに浸透した結果だと言えるだろう。そして、この「ノームコアスタイル」の代表的なアイテムとしてストリートを席巻しているのが、タートルネックニット。

タートルネックもここ数年常に注目されてきたアイテムだが、今季は素材やシルエットのバリエーションが増加。逆に色味は白、グレー、ベージュ、ネイビーなど抑え目の中間色が目立ち、アウターやボトムスとのバランスを一枚で整えてくれるコーディネートコンダクターとして活躍している。更に重要なのが、室内でコートを脱いだ時、一枚で確実に様になるアイテムであるということ。レディースでは、コートとタートルネックワンピースがメインというコーディネートもよく見かけた。シンプルさや実用性に価値観を見出す「ノームコア」を体現するアイテムと言える。

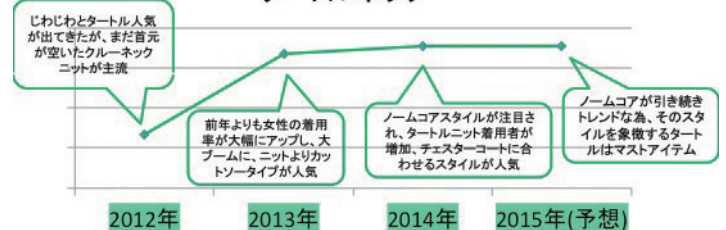




POINT

薄手の物ならシャツや他のアイテムのインナーにすることで、防寒しつつ今っぽさを加えることもできる。また、色や素材違いで持つておくことで、様々なスタイルを創り出せるため、コーデの幅が格段に広がる。

タートルネック



白ニット *White Knit*

白ニットが最強たる所以

温かみと清潔感があり、汎用性も高い。「白ニット」はファッションistaにとって、ワードローブになくてはならない存在にまで上り詰めた。白はシーンを問わず対応できるベーシックな色合いに加え、沈みがちな冬のコーディネートに抜け感を出してくれる。白ニットは挙げたらきりが無い程、魅力は多い。

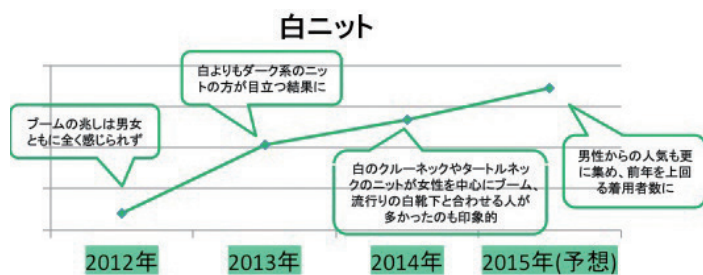
しかし、いくら最強のインナーといっても全く隙が無いわけではない。白ニットが使いやすいアイテムなのは間違いないが、着こなしによっては、下手すると“野暮ったい”印象になる恐れがある。例えば、強い柄物のアウターやボトムを組み合わせると、途端に白のクリーンさが弱まり、コーディネートバランスも崩れる。白ニットのクラシックで素朴なイメージをうまく取り込むには、「ベーシックアイテム」との組み合わせや、スタイルに「トレンド性」があることが条件だ。





POINT

2014年はビッグトレンドの「チェスターコート」と合わせるのを多く見掛けたが、ここ数年トレンドの「タートルニット」にすれば、よりハマるスタイルになるだろう。ロング丈のコートとハイネックで、全体的にスマートなシルエットが作れる為、身長を高く見せられる効果がある。また、ニットと合わせて半端丈パンツから白ソックスを見せて小物で遊ぶのも手だし、白ニットの下に敢えて白シャツを合わせるのも良い。同じ白でもやや色みが違うため、胸元で白のグラデーションを付けることで目を引くポイントになる。このように細部に気を使うと、白ニットの効果がよりアップする。





JFA「style-arena」Report 2014-15 winter

2015 年 4 月発行

■ 解説 企画事業部 情報発信事業
ディレクター 嶋田 有樹

■ 発行 一般財団法人 日本ファッション協会
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 1-5-1 神保町須賀ビル 7F
TEL. 03-3295-1311 FAX. 03-3295-3295 E-mail info@japanfashion.or.jp